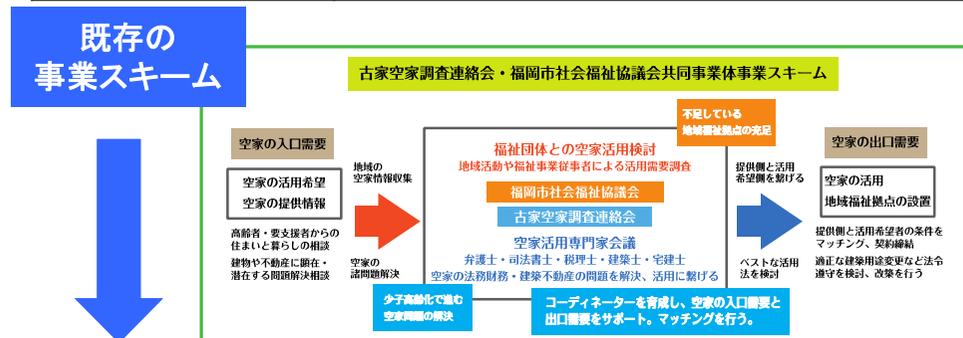


社会貢献型空家バンクによる「SDGs 11.住み続けられるまちづくりを」の実践事業 (古家空家調査連絡会・福岡市社会福祉協議会)

<h2>課題と目的</h2>	共同事業体が従来から取り組んできた空家活用スキームを発展させ、空家情報の収集能力の向上と利活用へのスムーズなマッチングの実現。空家問題と地域福祉の充実を同時進行で解決、空家発生 of 未然予防についても取り組む。
<h2>取組内容</h2>	①終活相談体制の充実、空家活用についての啓発 ②各種専門家によるスムーズな空家活用相談体制の確立 ③社会貢献型空家バンクを活用し空家情報を集約
<h2>成果</h2>	①終活相談による住まいと暮らしの相談対応、空家活用への啓発 ②空家活用相談とマッチング検討数の増加 ③新たな空家活用事例の実現



11 住み続けられるまちづくりを

事業内での取組みと成果

取組みと実績 (令和2年1月末現在)

終活出前講座の開催	47回	うち出張相談 2回
終活相談件数	のべ736人	
空家活用相談	16軒	
利活用出口利用の申込	20件	
マッチング検討	8件	
空家活用実現例	2件	
	東区美和台(地域カフェ) 早良区野芥(子ども食堂)	

空家活用啓発チラシ

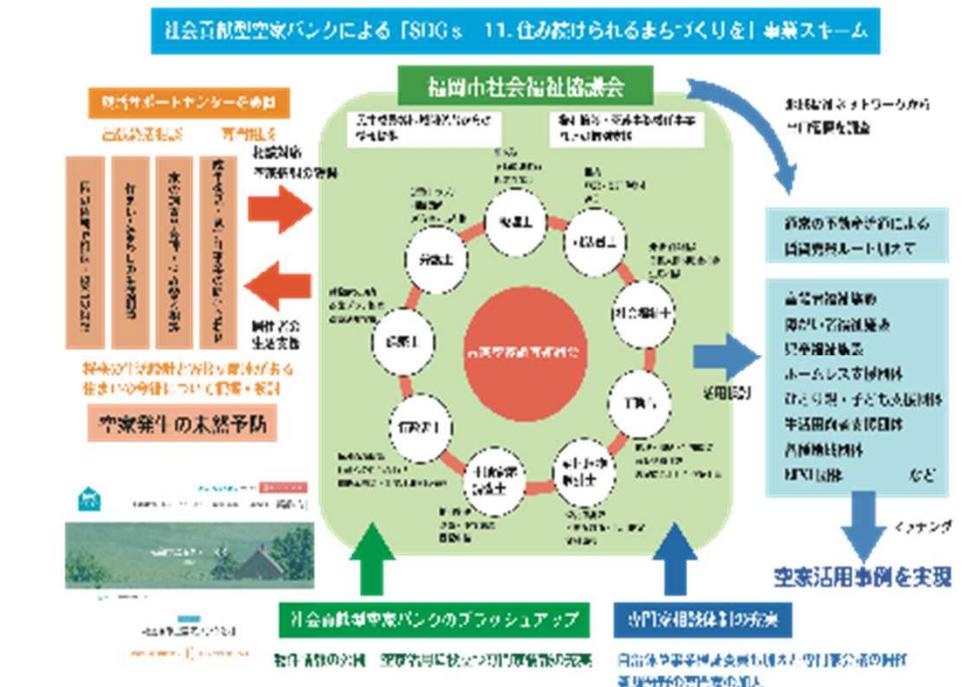
社会福祉法人福岡市社会福祉協議会(一社)社会貢献型空家バンク

あなたが持ちの空家、お住まいの家の空き部屋を福祉や地域に活かしませんか!

空家を地域の「宝」にする仕組み 社会貢献型空家バンク

地域福祉、高齢者支援、子ども食堂、障がい者支援

提供側と活用側を繋げるワンストップ相談窓口としての社会貢献型空家バンクを告知し、事業で実現された空家の福祉転用事例を紹介したチラシを制作。事業体による終活セミナーや各職能団体の配布により、事業内容を広く一般市民に啓発し、空家の提供や活用相談に繋げる。



社会貢献型活用実現例

野芥フリーハウス

以前は、賃貸住宅として使われていた、築約40年の空家。老朽化とともに借り手が不在となっていたが、鍍金不足に悩む子ども食堂を開く若手グループとオーナーの間を事業体が取り持ち、子ども食堂とバングラデシュの医療・教育支援に携わるNPO法人がホームシェア、地域の福祉拠点「野芥フリーハウス」が誕生。共有のリビングは、地域向けに貸しスペースでも活用中。